

中期目標・中期計画（素案）

豊橋技術科学大学

平成21年6月30日

国立大学法人豊橋技術科学大学 中期目標・中期計画一覧表（第二期：素案）

中 期 目 標	中 期 計 画
<p>（前文）大学の基本的な目標</p> <p>豊橋技術科学大学は技術科学に関する教育と研究を通して社会に貢献することを使命とする。この使命のもとで本学は主に高等専門学校卒業生を受け入れ、豊かな人間性と国際的視野を持つ実践的創造的かつ指導的技術者を養成するとともに、国際競争力のある先端技術の開発研究を推進し、我が国の社会、特に産業界の活力の創出に貢献してきた。</p> <p>本学は、天然資源に乏しい日本の繁栄には高度な技術力とそれを担う優れた人材が不可欠であるとの認識を堅持しつつ、環境・エネルギー問題など地球規模の諸問題の中で求められる新たな持続的発展型社会の構築を見据え、その中で本学が果たすべき役割を考察し、第二期中期目標・中期計画を設定する。具体的には以下の課題を中心に活動を進める。</p> <p>[教育]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に対応した課程の再編を行い、我が国の産業界の核となる基幹課程の充実と、新たな持続的発展社会の構築に対応する課程を整備し、現在から未来を見据えた新たな教育組織を整備する。 ・本学入学者の大半を占める高等専門学校卒業生の教育の強化のため大学院教育に重点を置き、レベルの高い基礎科学・教養教育とその上に立った実践的専門・技術教育を交互に進める「らせん型」教育を学部・大学院一貫で実施する。 <p>[研究]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで培った先端技術の開発研究を一段と強化し、国際的な研究拠点の形成を目指すとともに、持続的発展社会の構築に求められる先導的技術科学研究を推進する。 ・本学の特色ある技術科学研究と医学、農学、人文社会学など異分野との連携・融合を図り、技術科学の新たな融合領域の開拓を目指す。 <p>[国際展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際戦略本部のもとで、留学生の受け入れ・研修、日本人学生の海外研修・実務訓練、国際共同研究・人材交流などの国際交流に関連する活動の連携体制を強化し、世界に開かれた大学への展開を推進する。 <p>[社会貢献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携推進本部のもとで産業界との連携を強化し、実践的な技術開発共同研究や技術移転を推進する。 ・地域自治体、企業との連携を積極的に進め、大学の持つ「知」が地域社会の活性化につながる主体的な取り組みを推進する。 	
<p>◆ 中期目標の期間及び教育研究組織</p> <p>1 中期目標の期間 平成22年4月1日から平成28年3月31日までとする。</p> <p>2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表に記載する学部及び研究科を置く。</p>	

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- 【1】 社会の変化に対応し、将来の持続社会構築に向けた課程の再編を行い、現在から未来を見据えた新たな技術科学教育を行う。
- 【2】 再編による新しい教育体制のもとで、本学の特徴である「らせん型技術科学教育」を発展させる。
- 【3】 再編による新しい教育体制のもとで、多様な学習歴を有する国内外の学生に適切に対応する教育課程を編成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- 【4】 再編後の新しい教育体制をスムーズに機能させる。
- 【5】 教員の教育改善を継続的に促進する新しい体制を構築する。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

- 【1】 入学者選抜方法の改善等を踏まえ、アドミッションポリシーを明確にするとともに、学習・教育目標を設定・公開し、目標達成状況を常に検証する。
- 【2】 技術者教育の質を、日本技術者教育認定機構（JABEE）等の第三者機関、あるいは厳正な自己評価によって保証する。
- 【3】 広い視野と柔軟な思考力を養成するため総合教育院を置き、技術科学に即した人文・社会科学を含むリベラルアーツ教育、未来社会を見据えた科学教育及び国際化に対応した教育を充実する。
- 【4】 実践的思考力を養成するため、学部・大学院における実務訓練・海外インターンシップを強化する。
- 【5】 創造的思考力を養成するため卒業研究・修士論文の充実・実質化を進めるとともに、単位の実質化を踏まえて学生の主体的な学習を促す仕組みを構築する。
- 【6】 1・2年次における数学・物理・化学などの共通基礎科目や技術科学教育の充実を図る。
- 【7】 高等専門学校からの3年次編入学生のための教育内容を点検し、改善する。
- 【8】 高等専門学校専攻科からの大学院入学生のための教育体制を点検し、改善する。
- 【9】 学部－博士前期課程の一貫性、博士前期－博士後期課程の連続性を踏まえて教育内容を点検・改善する。
- 【10】 外国人留学生に対し、指導的技術者となるための技術科学に関する体系的な教育体制を構築する。
- 【11】 e－ラーニング等により社会人教育の内容充実を図る。

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 【12】 新しい教育体制を年次進行させつつ、これまでの教育体制を維持するシステムを構築する。
- 【13】 分野を横断する新しい兼務制度を整備し、これを積極的に活用した柔軟な教育体制を構築して、学生の学習意欲を高める。
- 【14】 学生による授業評価アンケート結果を利用し、教育改善状況の把握と評価を行う手法を構築する。
- 【15】 教員個人の自己点検の内容を教育改善にフィードバックさせる手段を考案し、実施する。

【6】全学的な教育改善を継続的に促進する新しい体制を構築する。

（3）学生への支援に関する目標

【7】学生の多様なニーズに対応し、充実したキャンパスライフを支援する学内体制の整備、充実を図る。

【8】留学生、社会人学生等への修学支援、生活支援を充実させる。

【9】本学の特性を活かした学部－大学院一貫キャリア教育・就職支援体制を充実させる。

2 研究に関する目標

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標

【10】本学の基本理念に基づき、技術科学を中心とした研究大学として世界を先導する研究開発を推進し、特定分野で世界的研究拠点を形成する。

【16】教育の補助・支援のため、学習サポートルーム等の充実を図る。

【17】教務委員会の下に共通教育検討委員会を設立し、共通教育と専門教育の連携を強化する。

（3）学生への支援に関する目標を達成するための措置

【18】編入学生、留学生、社会人学生など教育歴の異なる新生に配慮したきめ細かな就学ガイダンスを実施し、新たな学生生活へのスムーズな導入を図る。

【19】体育施設、学生交流会館など課外活動施設の整備及び学生宿舎等の居住環境の整備を図るとともに、学生諸団体との意見交換会等を通じて学生の要望を課外活動支援に反映させる。

【20】学生相談、健康相談など各種相談制度を充実させ、学生の修学、生活、健康など学生生活全般に亘る支援体制を整備する。特に不登校学生への支援を充実させる。

【21】各種奨学金や本学独自の学生表彰制度である「卓越した技術科学者養成プログラム」など、経済的な支援制度の適切な運用を図る。

【22】学生の自主的学習のための環境整備とその効果的な運用を図るとともに、在学生が新生にアドバイスを行うピアサポートの導入を図るなど、学習サポート体制を充実させる。

【23】留学生、社会人学生等の修学・生活支援を充実させ、特に就職支援に関するきめ細かな情報を提供できる仕組みを整備する。

【24】社会人として必要な規範意識などの社会人基礎力の養成を図る。また実務訓練、海外インターンシップ、MOT研修会など、専門的なキャリア教育の充実を図る。

【25】キャリア情報室の充実を図り、企業説明会及び就職講座等を定期的に開催し、企業や就職状況に関する最新の情報を提供できる体制を整備する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

【26】グローバルCOEプログラム等の大型プロジェクトを通じて、ブレークスルーを起こすためのセンシング技術を基盤とする先端的研究を推進するとともに、その成果を社会に還元する。

【27】高度な研究活動を通して優れた専門知識と技術科学能力を有し、世界的に通用する高度専門技術者の育成を行う。

【28】教員の教育研究活動、研究業績等について社会への情報発信を積極的に推進する。

【11】 持続的に発展可能な社会の構築のため、異分野融合によりイノベーションの源泉となる技術科学研究を推進し、その成果を社会に還元する。

【12】 研究開発成果に基づく知的財産の戦略的な蓄積と利活用を通して社会に貢献する。

（2）研究実施体制等に関する目標

【13】 高度な研究を推進する体制と環境を充実強化する。

【14】 国際的・全国的・地域的共同研究、受託研究等をさらに推進するための全学的支援体制を強化する。

【15】 学内研究資源（施設・設備機器、情報など）を機動的に有効活用できるシステムを強化する。

3 その他の目標

（1）社会との連携や社会貢献に関する目標

【16】 社会との連携や社会貢献のための体制を強化する。

【17】 本学が有する知や研究成果を活用し、教育・文化の向上、地域社会の活性化に貢献する。

【29】 他大学・他研究機関等との連携により、医工連携、農商工連携を推進するとともに、文理融合により新たな技術科学の研究活動の活性化を推進する。

【30】 学内の組織再編を通して、生命科学、環境学などの社会的な要請に合致した研究を推進する。

【31】 産学連携推進本部の強化により教員への支援を充実するとともに、戦略的な出願及び管理を実施し、知的財産の蓄積、利活用及び産学連携を促進する。

（2）研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

【32】 学内組織の再編等により、社会の要請に対応する分野の高度な研究を推進する体制を構築し、戦略的な企画立案を行う。

【33】 研究水準の向上のため、研究活動に係る自己点検・評価結果等を踏まえた研究資源（資金、人員）の配分を積極的に推進する。

【34】 全国及び地域の企業、自治体、金融機関等との連携を推進し、産学連携協力システムを強化する。

【35】 教員の国際的共同研究の推進を支援するための体制を構築する。

【36】 研究スペースの見直しを行い、若手研究者への研究スペース配分も考慮し、課金制度を維持運用するとともに、研究環境（電気、ガス、水道、情報等）の改修を計画的に実施して、研究推進に寄与する。

【37】 研究設備等マスタープランの定期的な見直しを行い、学内共用の研究設備、情報設備の計画的な整備を推進し、研究の促進に寄与する。

【38】 学内の特許情報、研究情報を集中的に管理・更新し、戦略的産学連携活動に結びつける。

3 その他の目標を達成するための措置

（1）社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

【39】 行政・教育・研究機関、企業、学協会、法人、民間団体等との技術科学等に関連した連携・支援事業を促進する。

【40】 社会人や市民に対する再教育・生涯学習・研修等を通じ、また、小中高校等教育機関と連携し、アウトリーチ活動を積極的に行い、社会における技術科学等に関する教育・文化の向上に貢献する。

【41】 行政、大学等研究機関、企業等との連携を積極的に進め、大学の持つ技術科学等に関連した「知」や「研究成果」を基軸に、社会の活性化につながる取り組みを積極的に推進する。

(2) 国際化に関する目標

- 【18】 国際交流・連携を推進するための体制を強化する。
- 【19】 開発途上国を含む海外の高等教育機関との連携・交流を推進する。
- 【20】 留学生・外国人研究者の受入を強化するとともに本学の学生、教職員の海外派遣を積極的に促進する。
- 【21】 地域社会の国際化に貢献する。

(3) 高等専門学校との連携に関する目標

- 【22】 高等専門学校との教育研究上の連携を強化するための体制を整備する。
- 【23】 高等専門学校との教育研究上の連携を推進し、相互の発展を図る。

(2) 国際化に関する目標を達成するための措置

- 【42】 国際交流・連携を全学的に推進するための戦略を策定し展開する。
- 【43】 工学教育国際協力研究センター（ICCEED）をはじめとした諸センターの再編等により、推進体制を強化する。
- 【44】 海外の大学・研究機関との交流協定を積極的に整備し、締結した協定校との交流状況を分析し、必要に応じて見直す。
- 【45】 重点的に交流を推進する海外の大学等を選定し、教育協力、共同研究、産学連携協力を積極的に実施する。
- 【46】 本学の外国人向けホームページの充実を図るとともに、海外における本学の同窓会を積極的に支援し、広報及び情報発信機能を強化する。
- 【47】 外国人教員・研究者の受入は、国際交流協定校等から年間本学教員の10%程度以上を目指す。また、本学教職員の国際的レベルを維持・発展させるため、各種事業・海外派遣制度を利用して、年間本学教員の5%程度以上の派遣を実現するとともに、学生の海外派遣・留学を推進する。
- 【48】 アジアを中心とした留学生・研究者のネットワーク、発展途上国の工学教育強化プロジェクト、留学生を含む人材養成の強化を図るため、工学教育国際協力研究センター（ICCEED）をはじめとした本学の諸センターを積極的に活用する。
- 【49】 留学生30万人計画を踏まえ、外国人留学生の受入の拡大に努め、在籍学生の10%程度以上を年間目標に受入を推進する。
- 【50】 三遠南信地域を中心とした行政機関・国際交流協会等と連携を図り、地域社会の友好親善事業・交流会・ホームステイ事業への協力を強化する。また、外国人留学生、本学教職員を国際理解教育、地域の国際交流事業等を行う小中高校等に派遣する。

(3) 高等専門学校との連携に関する目標を達成するための措置

- 【51】 高専連携室を中心とした高等専門学校との連携の枠組みを拡充する。
- 【52】 高等専門学校との教育研究連携に基づく学生の入学制度及び支援制度を整備する。
- 【53】 一貫した技術者教育のための高等専門学校との教育連携及びファカルティ・ディベロップメント（FD）を推進する。
- 【54】 高等専門学校との共同研究、教員交流を推進・支援する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

【24】技術科学大学の特性を活かした機動的、効率的な大学運営及び外部の意見を活かした戦略的な大学運営を遂行する。

【25】主に高等専門学校卒業生を受け入れる大学として、一般大学とは異なる個性・特色を明確にし、先進的かつ先導的な技術科学教育・研究を実施する教育・研究組織を確立する。

【26】本学の教職員が活性化する人事システムを整備し、充実する。

2 事務等の効率化・合理化に関する目標

【27】管理運営への参画、教育研究活動に対する支援の強化、産学官連携・高専連携・地域連携の強化、学生に対するサービスの向上のため事務改革を推進する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の安定的確保に関する目標

【28】自立性・自主性を高める財政基盤を確立するため、外部研究資金を中心とした自己資金の安定確保に努める。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

【55】学長がリーダーシップを発揮し、教育研究組織の再編に合わせ管理運営体制を整備・充実する。

【56】経営協議会をはじめとして、学外有識者による「アドバイザー会議」を活用するとともに、ステークホルダー等の意見を反映する学内体制を追加整備し、外部の意見を取り入れる体制を一層充実する。

【57】教育研究の活性化のため、戦略的な配分(人材、施設・設備、予算配分等)を見直し、整備・充実する。

【58】学部・大学院及びセンター等(教育組織、研究組織、教育・研究支援組織等)を再編し、学年進行に沿って整備するとともに、完了後は再編内容について検証する。

【59】優れた教職員を確保するため、教員の人事企画、採用計画等の人事計画を策定するとともに、女性及び外国人等の採用による教員構成の多様化などを積極的に推進する。

【60】人事評価制度の検証、必要に応じ改善を行うとともに、引き続き人事評価結果等を活用し、給与、昇給、表彰に反映する。

2 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

【61】教育研究組織の再編に合わせ、事務組織を整備・充実する。

【62】第二期事務改革アクションプランを作成し、重点課題(人事制度改革、事務の簡素化・合理化、事務職員の再配置)に対する具体的実行計画により、事務改革を推進する。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の安定的確保に関する目標を達成するための措置

【63】競争的研究資金に関する情報収集を迅速かつ的確に行うとともに、産業界・地方公共団体等との連携協力の強化を図り、寄附金、共同研究、受託研究等の外部研究資金の獲得に努める。

2 経費の抑制に関する目標

(1) 人件費の削減

【29】「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間において国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。

(2) 人件費以外の経費の削減

【30】業務の一層の見直しを図り、管理的経費の抑制に努める。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

【31】資産の効率的かつ効果的な運用管理に努める。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

(1) 人件費の削減

【64】「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。

(2) 人件費以外の経費の削減

【65】効率的な法人運営のため、引き続き業務の見直しを行いつつ、費用対効果を検証するとともに経費の抑制を図る。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

【66】市場調査・分析を的確に行うことにより、経営基盤の強化につながる資金の運用を図るなど、現有資産を適切に活用する。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

【32】大学活動全般に対する改善に資するため、評価活動を一層推進する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

【33】社会に対し開かれた大学として、大学情報の積極的な公開及び発信を行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 評価の充実に関する目標を達成するための措置

【67】組織等評価、個人評価などの自己点検・評価システムを計画的に運用し、評価結果を活用することで大学運営の一層の改善・充実を図る。
【68】教育研究活動等の質を保証するために、大学機関別認証評価等の第三者評価を受け、その結果を活用し改善を図る。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置

【69】それぞれの受け手のニーズに対応した効果的な情報提供を行うとともに、ブランディング戦略を意識した大学情報の発信と広報活動を推進する。
【70】学内情報の共有化をさらに推進し、社会に対する説明責任を果たすため、迅速かつ的確な広報活動の体制を強化する。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

【34】 キャンパス・マスタープランに基づく施設設備整備を推進し、良好なキャンパス環境を形成する。

2 安全管理に関する目標

【35】 大学として社会的責任を果たすため、リスク管理の充実等を一層推進し、総合的な取組みを行う。

3 法令遵守に関する目標

【36】 コンプライアンス・マネジメントを徹底し、社会からの信頼を確保した大学運営を行う。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

【71】 本学の基本理念に基づき策定したキャンパス・マスタープランに沿って、国の財政状況や社会及び施設需要の変化等を踏まえ、新たなる整備手法を推進するとともに、省エネルギー等の環境に配慮した教育研究施設・設備の充実を推進する。

【72】 教育・研究組織の再編等に伴う教育・研究の高度化・活性化等に対応させるため、安全・安心対策に配慮するとともに、費用対効果を勘案しつつ、計画的に老朽施設の改善を推進する。

【73】 施設の点検・評価システムを継続して実施するとともに、全学的な視点に立った施設マネジメントシステムに基づく弾力的・効率的なスペースマネジメントを行う。

2 安全管理に関する目標を達成するための措置

【74】 労働安全衛生法等の法令に基づき、大学構成員の健康の保持増進、危険の防止等を推進するため、安全衛生管理推進本部を中心とする体制をさらに強化する。

【75】 大学構成員の安全確保及びリスク管理能力の向上に資するため、研究室等の点検・整備を行うとともに、定期的な研修や訓練を行い、安全・衛生等に係る意識改革を行う。

3 法令遵守に関する目標を達成するための措置

【76】 教職員一人一人の社会的責任、法令遵守に対する意識の向上を図り、自己点検等の体制を整備する。

【77】 コンプライアンス推進のため、外部有識者を加えるなど、内部体制の整備充実を図る。

(その他の記載事項) (添付省略)

○予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画 ○出資計画 ○短期借入金の限度額 ○長期借入金又は債券発行の計画 ○重要財産の処分(譲渡・担保提供)計画 ○剰余金の使途 ○施設・設備に関する計画

中期目標		中期計画		年度計画	
別表(学部、研究科等)		別表(収容定員)		別表(学部の学科、研究科の専攻等：平成22年度)	
学部	工学部	平成22年度	工学部 920人 工学研究科 892人 うち博士前期課程 395人 修士課程 395人 博士後期課程 102人	工学部	機械工学課程 20人 電気・電子情報工学課程 15人 情報・知能工学課程 15人 環境・生命工学課程 20人 建築・都市システム学課程 10人 機械システム工学課程 104人 生産システム工学課程 110人 電気・電子工学課程 104人 情報工学課程 110人 物質工学課程 90人 建設工学課程 102人 知識情報工学課程 110人 エコロジー工学課程 110人
研究科	工学研究科	平成23年度	工学部 920人 工学研究科 892人 うち博士前期課程 790人 博士後期課程 102人	工学研究科	【博士前期課程】 機械工学専攻 105人 電気・電子情報工学専攻 85人 情報・知能工学専攻 85人 環境・生命工学専攻 65人 建築・都市システム学専攻 55人 【修士課程】 機械システム工学専攻 47人 生産システム工学専攻 50人 電気・電子工学専攻 54人 情報工学専攻 50人 物質工学専攻 40人 建設工学専攻 46人 知識情報工学専攻 58人 エコロジー工学専攻 50人
		平成24年度	工学部 980人 工学研究科 892人 うち博士前期課程 790人 博士後期課程 102人		-----
		平成25年度	工学部 1,040人 工学研究科 892人 うち博士前期課程 790人 博士後期課程 102人		【博士後期課程】 機械・構造システム工学専攻 18人 機能材料工学専攻 24人 電子・情報工学専攻 42人 環境・生命工学専攻 18人
		平成26年度	工学部 1,040人 工学研究科 892人 うち博士前期課程 790人 博士後期課程 102人		
		平成27年度	工学部 1,040人 工学研究科 892人 うち博士前期課程 790人 博士後期課程 102人		